

利用実態調査及びアンケート調査

1 利用実態調査の概要

(1) 利用者動向調査及び料金体系意識調査の概要

① 目的：

自転車等駐車場に関する新規・充実施策を検討するため、自転車等駐車場の利用状況や自転車等駐車場の料金体系に関する自転車等駐車場利用者等の利用者意識を把握することを目的とする。

② 調査内容：

自転車の利用状況	利用目的, 出発点 (住所・郵便番号), 目的施設, 所要時間 (距離), 利用時間 (開始・終了), 利用頻度, 代替えの交通手段
駐輪場利用の満足度	満足度, 満足・不満な理由
料金体系の意識調査	仮想条件の設問
調査対象者の属性	居住地・郵便番号, 年齢, 性別, 職業

③ 調査箇所：

都心部, 三条駅, 祇園四条駅, 西院駅, 出町柳駅, 京都駅, 北大路駅, 西京極駅, 太秦駅

(自転車等駐車場の需給バランスより, 状況の異なる駅を抽出)

④ 調査日時：

平成21年5月27~29日, 6月1日, 3日~5日

⑤ 調査対象：

- ・駐輪場を利用した (する) 人
- ・駐輪場周辺で路上に駐車した (している) 人

⑥ 調査方法：

インタビュー方式により, 調査員が調査票に記録する。

(2) 自転車放置状況調査の概要

① 目的：

駅周辺の自転車放置状況を把握するため, 路上に駐輪し直ちに移動できない状態の自転車 (放置自転車) の台数を調査する。

② 調査箇所：

「利用者動向調査及び料金体系意識調査」の調査箇所と同様とする。

③ 調査日時：

平成21年6月30日~7月4日

④ 調査方法：

調査対象範囲について, 住宅地図上に, 放置場所と台数をプロットする。

2 市民アンケート調査

(1) 調査の目的

自転車の安全かつ快適な利用環境の確保と利用促進を図ることを目的に進めてきた前総合計画の評価を市民アンケート調査から把握する。【検証】

また、市民の自転車の利用状況や走行環境への満足度等、現状や課題を把握し、市民の視点として、総合計画のインプット情報に活用する。【市民の視点】

(2) 調査対象

調査対象は、京都市域全体とし、高校生以上の市民を対象に無作為に抽出する。

(3) 調査方法

調査方法は、住民基本台帳から抽出した市民に対し、郵送方式により実施する。

(4) 調査項目

設問	明らかにする事項
1. 自転車の利用状況	
(1)自転車の保有（世帯全員） ①自転車の保有台数 ②世帯人数	世帯における自転車の保有状況を調査し、家族構成における保有状況の差異を把握することで市全体での保有台数の推計を行う。
(2)自転車の利用状況 ①主な利用目的 ②利用頻度 ③利用する時間帯 ④走行距離、時間 ⑤自転車利用の理由	自転車の利用実態を把握することで、日常生活における自転車の役割を明確にする。
2. 自転車等駐車場について	
①満足度 ②駐車場の利用状況 ③駐車場を利用しない理由 ④放置場所の選択理由 ⑤今後の整備への配慮事項	自転車等駐車場整備に関する評価（満足度）を把握するとともに、今後の整備に向けた課題を抽出する。
3. 自転車走行空間について	
①自転車の利用しやすさ ②利用しやすい点、利用しにくい点 ③自転車走行で危険な場所 ④歩行者の立場での危険	自転車利用者における現状の走行空間の評価、走行空間の危険な状況を把握する。
4. 自転車利用マナー・ルールについて	
①マナー・ルールの理解 ②マナーの遵守状況 ③マナー・ルールの認識 ④今後の取組への配慮事項	利用マナー・ルール現状の評価を把握するとともに、今後の取り組みに向けた課題を抽出する。
5. 総合計画への要望	
①重視する取組 ②意見、要望（自由回答）	自転車施策に対する要望を把握する。
6. 回答者の属性	
①居住地、②性別、③年齢、④職業	個人の基本的な状況を把握する。